

ペンリレー

「傘寿を迎えて」

甲府21ワイズメンズクラブ 山縣 譲治

私は今年2月で80歳になります。人が長生きできるように... 1つ目は、食料事情の改善、2つ目は、衛生環境の向上、3つ目は、医学の進歩である。

日野原重明先生が、「人生とは」という質問に、しばらく間をおいて「それは今あなたが生きているその事」と話されていた。

また、教会で以前、先輩の女性が「わたしは何も出来なくて」とよく話していた。私が今生きているという事は「神によって生かされている」と思っている。

ある文章より、「人間は年を重ねると角が取れて丸くなる。そんな言葉をきいたこともあるが、年寄りたちと過ごしていると、怒りっぽい人はより怒りっぽく、涙もろいひとはより涙もろくなっているように思う。

作家の佐藤愛子さん(95歳)は文章で、「死んだらどうなるか」を考える中で、怨みつらみ、執着、物欲などは生きているうちに浄化しておいた方がいい」という思いに至る。

自分では気がつかない事も多い。参考にしてそろそろ終活を始めようか・・・!

山梨YMCA便り

「新年を迎えるにあたって」

山梨YMCA 総主事 露木 淳司

皆様、あけましておめでとうございます。

私は2010年の4月に総主事となりました。早いもので、あと1年で10年になります。最初の頃は経営難に悩まされました。どの事業も衰退傾向で、会員は減少の一途でした。

収入規模は1億を超え、10年前の約2倍になりました。常勤の職員数も4人だったのが、13人になっています。今年さらに小規模保育所を立ち上げる予定です。



国際会長主題 : 私たちは変えられる
アパ太平洋地域会長主題 : アクション!
東日本区理事主題 : 為せば、成る
あずさ部長主題 : 未来はそれに備える人のものである
甲府21クラブ会長主題 : 世代を超えて、笑顔で奉仕

甲府21ワイズメンズクラブ
2019年1月会報
強調月間
IBC/DBC

今月の聖句

疲れた者、重荷を負う者は、だれでもわたしのもとに来なさい。(マタイ11章28節)
松村 禎夫選

会長挨拶 新年を迎えて

甲府21ワイズメンズクラブ会長 野々垣健五

2019年 新しい年となりました。
明けましておめでとうございます。



1月は、私の終生の師である故・船井幸雄先生の誕生月であり、又、召天された月でもあって、特別な思いがする新年の始まりの月です。

「甲府21」において「まずは参加」、そして「楽しんでるか?本当に楽しいか?」。そして「人間の輪」を楽しんで。ついでに「YMCAの事業に応援」をしていこうとなります。

私は今年もまだ、四ツ谷の上智大学の真前にある事務所で友人や取引先に会っています。「現役」、或いは「現役に近い」事をいつ迄やるのか?対応を考えながら過ごしています。

2019年1月 合同例会プログラム

日時: 2019年1月8日(火) 18:30~
会場: 談路館

- 【第一部】
①開会点鐘
②ワイズソング
③ワイズの信条
④今月の聖句
⑤会長挨拶
⑥ //
⑦ゲスト紹介
⑧ゲスト御挨拶
⑨会員ひと言
⑩諸報告
⑪ハッピーバースデー
⑫卓話者紹介
⑬ゲスト卓話『YMCAが青少年の希望となる日!』
⑭質疑応答
⑮お礼の言葉

- 【第二部】
①開会の辞
②食前の祈り
③乾杯
④会食
⑤ミニ「マジックショー」
⑥ニコニコボックス
⑦YMCAの歌
⑧閉会点鐘

1月の誕生者
メン... 小澤公紀メン 1月1日
メネット... 山本貴美子さん 1月10日
清藤和子さん 1月11日

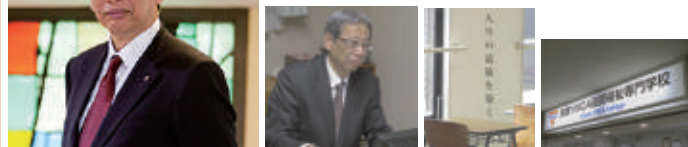


Table with financial data: 2018年12月24日現在, 会員在籍者数 30名, 12月の出席率, 例會出席者数... 27名, 第二例會出席... 19名, メイキャップ... 0名, 27÷30=90%, 項目, ニコニコボックス, パザー収益金, クリスマスオークション, 目標値, 達成率.



◆卓話者プロフィール◆

日本YMCA同盟総主事 神崎清一氏



経歴

昭和28年7月8日生まれ
昭和56年 京都YMCA入職
平成15年 学校法人京都YMCA学園 理事
京都YMCA国際福祉専門学校 校長
公益財団法人京都YMCA 総主事 就任
平成27年 舞鶴YMCA国際福祉専門学校 校長 就任
現在 日本YMCA同盟 総主事

12月例会報告

甲府21ワイズメンズクラブ 寺田 喜長

日時 2018年12月9日(日) 17:00~
会場 岡島ローヤル会館
出席者「メン」相川、赤根、飯田、荻野、小澤公、鎌田、功刀、輿水、後藤、駒田、作田、佐藤、清藤、茅野、露木、寺田、奈良田、野々垣、廣瀬、古屋、藤原、松村禎、松村豪、葉袋、山縣、山本、米長、(27名)
「メネット」相川、荻野、駒田、清藤、寺田、奈良田、野々垣、廣瀬、古屋、松村仁、葉袋、山縣、山本、(13名)
「ゲスト」岡牧師ご夫妻、沼田様ご夫妻 YM職員5名(中田様、福田様、佳雅様、森様、山田様)、甲府YWCA



3名(田草川様、五味様、中島様)、飯田華代子様(ヴァイオリン奏者)、(13名) 合計53名
司会 後藤メン、奏楽 古屋メネット、会員一言 奈良田メン、奨励 岡信男牧師
『第一部礼拝』は甲府インマヌエル教会の岡信男牧師に「マリアの驚愕と承服」と題して奨励を頂きました。『第二部例会』では奈良田メンのスピーチは「奈良田姓について」と、自己アピールと共に、設計者として係っているYMCA新館建設の進行状況と資金協力のアピール。会長挨拶では、YMCA事業の一つである放課後児童デイの施設「田富恵みの家 りんごの木」が12月3日にスタートしたと報告があり、ワイズの「楽しく」「尽くそう」の精神を実践していきましょうと支援要請がありました。アトラクションは山梨大学吹奏楽団26名に演奏して頂きました。迫力ある素晴らしい演奏でした。『第三部祝会』の初めはバザーで好評でした大根の栽培に協力頂いた沼田様ご夫妻に感謝状をお渡ししました。子ども達が笑顔で作業をする姿を見るのが楽しいとの思いでお支え下さると挨拶頂きました。有り難うございます。ハッピーバースデーは4名の方をお祝いし、荻野副会長の乾杯で懇親会を開始、飯田様がリクエストに応えながら各テーブルを回りヴァイオリン演奏をして下さる中、楽しい一時を過ごし、恒例のオークションを最後に閉会しました。盛り沢山の内容を準備して頂きました担当委員、及び役員の皆さまに感謝します。

「クリスマス例会に参加して」

山梨大学 山梨大学教育学部言語教育コース 森田 美結

今回甲府21ワイズメンズクラブさんのクリスマス例会には、先の12月2日に行いました、私たち山梨大学吹奏楽団の第39回定期演奏会へご協賛をいただいた繋がりでお出演させていただきました。ご依頼をいただいた時は、みなさんに演奏という形でご協賛のお礼ができることが嬉しく、当日を心待ちにしておりました。



私たちは「一人ひとりを大切に作るバンド」を目標に掲げ、日々の感謝を大切にしながら活動しています。またこの団は中学校や高校の部活動のような所謂「顧問の先生」の指導を受けるのではなく、学生主体で活動するという特色があります。今回のクリスマス例会に向けた練習の中でも、学生指揮者を中心に演奏をより良いものにするために団員同士で声をかけあい、みなさんに「聞いてもらいたい」演奏を作ることができたと思います。

本番当日は初めての場所、そして初対面のみなさんの前での演奏に緊張していましたが、みなさんがとても温かく迎えてくださり、演奏中も手拍子などで盛り上げてくださったおかげで、私たちも演奏を楽しむことができました。また何より甲府21ワイズメンズクラブのみなさんと音楽を通して素敵な時間を共有することができ、人と人とを繋ぐ「音楽の力」を改めて感じることができました。

今回いただいた「ご縁」に感謝し、これからも私たち山梨大学吹奏楽団が甲府21ワイズメンズクラブのみなさんと一緒に発展していけるように邁進していきたいと思います。

(山梨大学吹奏楽団々員)

クリスマス礼拝奨励要旨

マリアの驚愕と承服 (ルカによる福音書1章28~38節)

インマヌエル甲府キリスト教会 岡 信男 牧師



天使ガブリエルの出現とその言葉に、マリアは驚愕します。キリストの母になるという人生の転機が、彼女に突如訪れたからでした。

クリスマスに見るマリアは、私たちが経験する驚き、戸惑い、恐れ、死別といった予期しない不本意な出来事は誰にでも起こり得ます。そこで、人は自らの弱さ、無力に否応無く向き合わされます。想定外を受け入れ、乗り越えることは容易ではありませんが、昔も今も将来も突きつけられる課題です。

22世紀へ向かって生きる青少年のために、教育には、新たな時代を生き抜く人材に育てることが求められています。AI、ビッグデータ、IoT、ICT、ロボットによって、250年ぶりの産業革命の時代が来ます。新しいテクノロジーは、便利で豊かな生活を期待させる反面、未経験の新しい大きなリスクを背負わせ、想定外の危機に人類を晒させます。政治、社会、金融、環境、エネルギー等、諸分野の葛藤も今後、複雑化、深刻化します。そのため、日本では、Active Learning(主体的で対話的で深い学び)に代表される、新しい学習指導要領が導入されます。想定外に真正面から向き合い、葛藤しつつも、最後には全てを承服したのが、マリアです。その呼び水は、天使が語った「恵み・永遠・力」であり、私たちにも教えています。

「恵み」は、命(生きる力)として私たちに現われています。神は、想定外に葛藤する者をも、命の恵みで満たすことができます。死の恐れからその者を解き放ちます。「永遠」は、神の不変を示します。目まぐるしく移り変わる社会、時代であり、私たちです。しかし、神は永遠に不変です。自分という一つの存在の中心に、不変の真理、永遠の神を据えることで、揺り動かされない平安が与えられます。「力」とは、神の全能です。「神にできないことは何一つない」と聞かされたマリアは、神に抗うことをやめ、全てを受け入れ、自らを従わせました。これこそ信仰です。信仰は、私たちが救い、人生を幸いへ導くのです。



「松本ワイズメンズクラブ・アジア賞授賞式」

甲府21ワイズメンズクラブ 荻野 清

(参加者) 野々垣メン、荻野メン、廣瀬メン、松村禎メン、飯田メン、駒田メン、松村豪メン、寺田メン、茅野メン、輿水メン、小澤公メン(11名)

12月15日、松本ワイズメンズクラブ創立30周年記念例会が、第20回アジア賞授賞式と併せて、「深志神社梅風閣」にて開催。松本市の菅谷昭市長、アジア太平洋地域会長、東西日本区の両理事、あずさ部長及び17クラブのメンバー有志並びにIBC台湾桃園クラブが参加し、アジア賞受賞者を含め、総勢99名の記念例会・授賞式でした。



当甲府21クラブの廣瀬あずさ部長の祝辞では、「松本と甲府はお隣同士で格別の馴染みやすさがあること、人集めのプランニング等が一步先を進んでいる点に関心を寄せている」との話がありました。また、海外からIBC台湾桃園クラブ会長の徐立發氏から、松本クラブへ熱いメッセージが述べられました。

記念講演として、菅谷 昭氏が「原子力災害による健康・環境への長期的影響」と題して、1986年のチェルノブイリ原発事故から32年が経過した現状を見る中で、医師として事故後に現地で治療に専念したこと、時系列に見る甲状腺がんの発症について問題提起をされました。放射線の影響は今なお続いている中で、福島原発事故からまだ7年、外部被曝よりは、呼吸や食物によって放射性物質を直接体内へ取込むという、いわゆる内部被曝が健康リスクにつながるという見解をされており、放射能物質の半減期は程遠い年数が必要だとも話されました。

そして第20回記念の「アジア賞授賞式」へと移り、選考委員長の北村明也氏から選考講評をいただき、最優秀賞の韓国出身のコ・ウンギョンさんをはじめ、優秀賞2名、記念会長賞2名、佳作5名及び山梨YMCA特別賞他2つの特別賞が3名にと、11名の留学生に各賞が授与されました。

さらに「アジアのひとつ」と題したプレゼンテーションが、留学生から発表され、現地に赴かなくてはならない国や郷里の様子が生々しく紹介され、楽しく拝見。また、記念式典交流会では、短時間ではありましたが、受賞者全員と歓談することができ、留学生の郷里や日本の素晴らしい所の話など、年代を超えた懇親会になり、心地良い有意義な一日となりました。

